

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



おうひ

うつくしい王妃

エステル



ぶん
文: Edward Hughes

え
絵: Janie Forest; Alastair Paterson

かいさくしゃ
改作者: Ruth Klassen

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki
監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ
出版社: Bible for Children
www.M1914.org

©2022 Bible for Children, Inc.

きよか 許可: たにん 他人に う 売らない かぎ 限り はなし このお話の また コピー、又はプリントは、
きよか 許可されています。



むかしのこと、エステルという名前のうつくしい女の子がいました。エステルのお父さんとお母さんは、早く亡くなってしまい、それからはかの女のおじさんモルデカイが、エステルを育てるようになりました。エステルは、まるでおじさんのほんとうのむすめのように！おじさんをそんけいし、言うことをよく聞くととてもよい子でした。





エステルは、ペルシアに住んでいました。でもね、ペルシア人では、ありません。ユダヤ人です。かの女のずっとずっと前の、おじいさんやおばあさんたちは、せん争のとらわれ人として、ペルシアにつれて来られたからです。エステルの時代には、たくさんのユダヤ人が、ペルシアに住んでいました。



あるとき、ペルシアの王さまは、世界中の高位おう せかいじゅう たか くらいについている人たちをあつめ、

大きな大きなえん会おお おお かいをひら

きました。男おとこの人たちは、
みんなあつまって、ごちそ

うたを食べていましたよ。

女おんなの人たちもまた、
ずっとはなれたところでワ

シュティ王妃おうひといっしょに、

えん会かいをしていました。



そのとき、お酒さけによった王さまが、ワシュティにめいれいして、
おうおう言いいました。「ワシュティよ、

じょおう
女王のかんむりをかぶり、
あなたが、どんなにうつく

み
しいか、みんなに見せて
やりなさい。」でもね、

おうひ
ワシュティ王妃は、
ことわったのです。

おう
「いいえ、王さまそれ
はできません。」



おんな ひと じぶん おっと
女の人、自分の夫を
うやまい、したがわなけれ

ばなりません。王さまは、

このことを、みんなに知らせるために、

法のきまりどおり、ワシュティ王妃の

かんむりを取りあげてしまいました。

いまはもう、ワシュティは、王妃では
なくなりました。



さ^{おうひ}て、あたら^{おうひ}しい王妃^{おうひ}さがしが、
は^{くに}じまりました。この^{くに}国の^{くに}たくさ
んの^{しょうじょ}うつくしい^{なか}少女^{おう}の中から、王^{おう}さ
ま^{じぶん}は、い^{おうひ}ったい^{おうひ}だれ^{おうひ}を^{おうひ}自分^{おうひ}の^{おうひ}王妃^{おうひ}に^{おうひ}えら
んだ^{おうひ}ので^{おうひ}しょうか。そ^{おうひ}う、エ^{おうひ}ステ^{おうひ}ル^{おうひ}です。
エ^{おう}ステ^{おう}ル^{おう}が^{おう}王^{おう}さま^{おう}のお^{おう}く^{おう}さん^{おう}に、え^{おう}ら^{おう}ば^{おう}れ
ま^{おう}した^{おう}よ。王^{おうひ}さま^{おうひ}は、エ^{おうひ}ステ^{おうひ}ル^{おうひ}の^{おうひ}あ^{おうひ}たま^{おうひ}
に、王^{おうひ}妃^{おうひ}の^{おうひ}かん^{おうひ}む^{おうひ}り^{おうひ}を、か^{おうひ}ぶ^{おうひ}せ^{おうひ}ま^{おうひ}した。
そ^{じぶん}の^{じん}とき^{じん}、エ^{じん}ステ^{じん}ル^{じん}は^{じん}自分^{じん}は、ユ^{じん}ダ^{じん}ヤ^{じん}人^{じん}で
あ^{おう}る^{おう}こ^{おう}と^{おう}を、王^{おう}さま^{おう}に^{おう}言^{おう}い^{おう}ま^{おう}せ^{おう}ん^{おう}で^{おう}した。
ど^{おう}う^{おう}し^{おう}て^{おう}っ^{おう}て、お^{おう}じ^{おう}さん^{おう}モ^{おう}ル^{おう}デ^{おう}カ^{おう}イ^{おう}が、
言^いわ^いない^いよ^いう^いに^いっ^いて^い言^いった^いか^いら^いです。



おじさんモルデカイは、エステルがどうしている

おも きゆう い ぐち

んだろうと思い、宮でんの入り口を、

いちにち い き
一日じゅう行ったり来たり・・・。



ひ きゆう

ある日、かれは、宮でんで

ふたり め

はたらいている二人の召しつかいが、

なに

ヒソヒソと何やらはなしているのが、

き おう
聞こえてきました。どうやら、王さまを

ころ けいかく おう
殺そうと計画しているようです。王さまの

いのち おも
命をすくわなければと思ったモルデカイ

し

は、すぐ、このことを知らせたのです。

ふたり め

それで、その二人の召しつかいは、しば

くび

り首になってしまいました。このことで、

な

おう

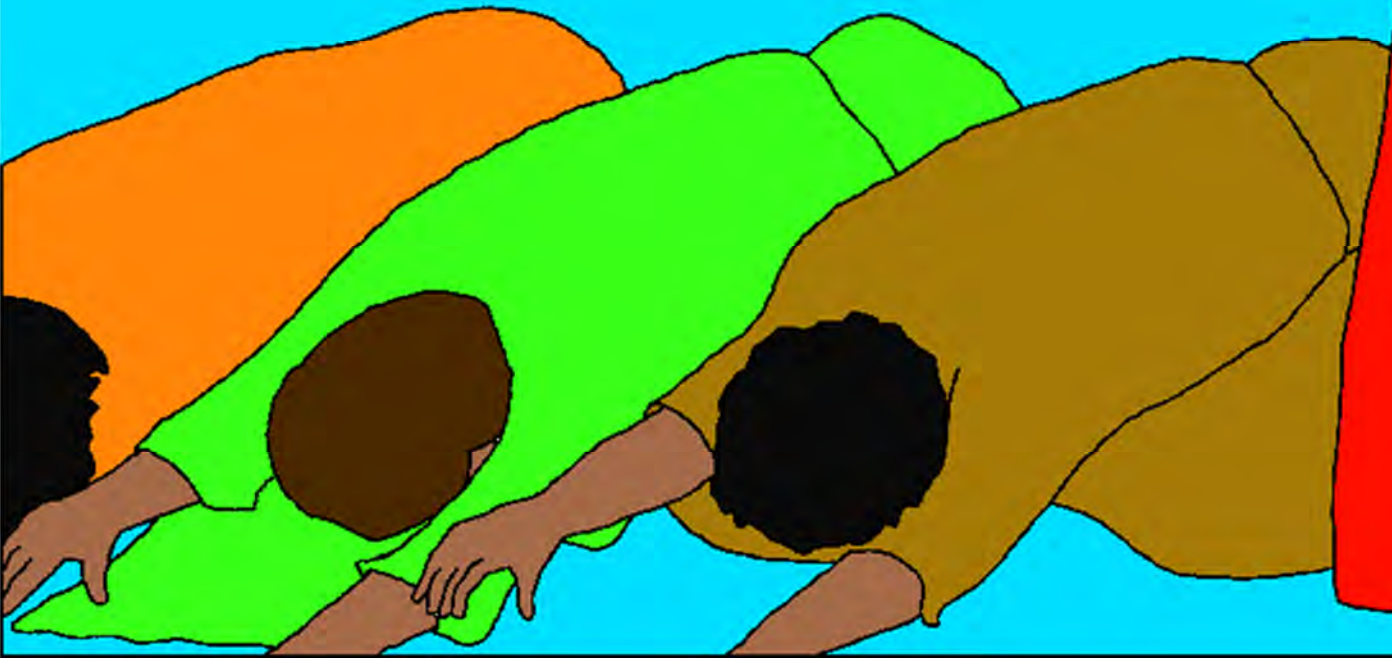
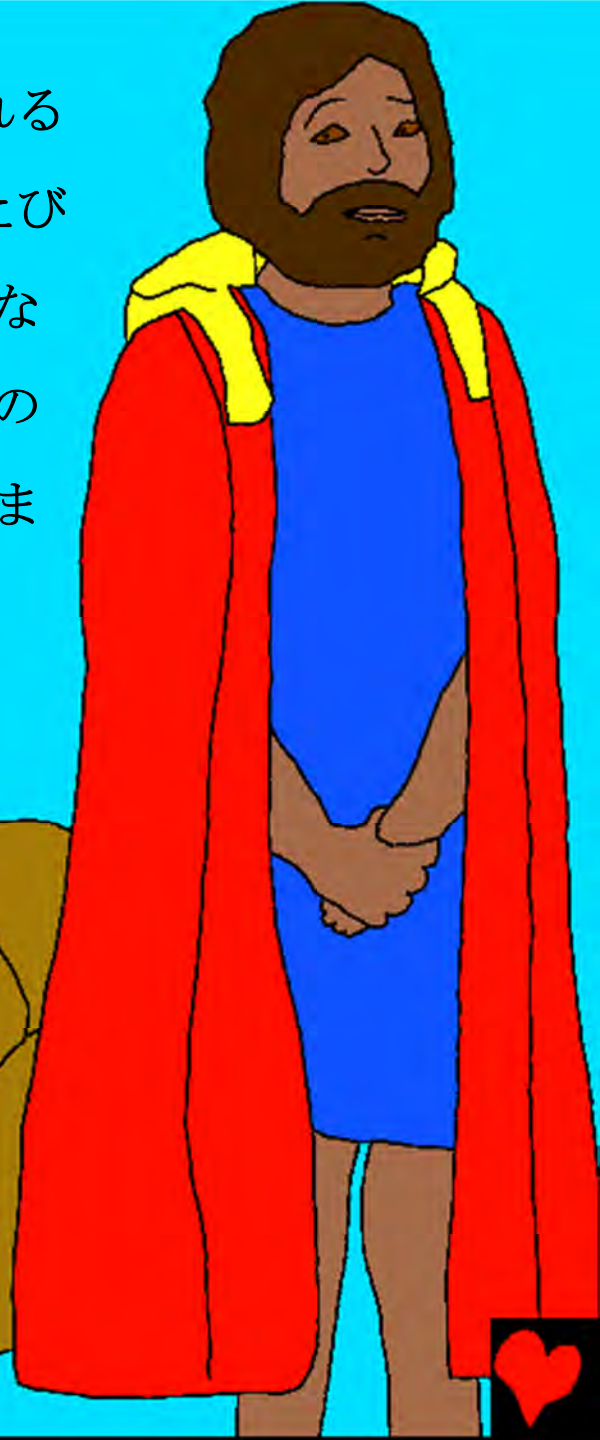
モルデカイの名まえは、王さまのきろくの

ほん

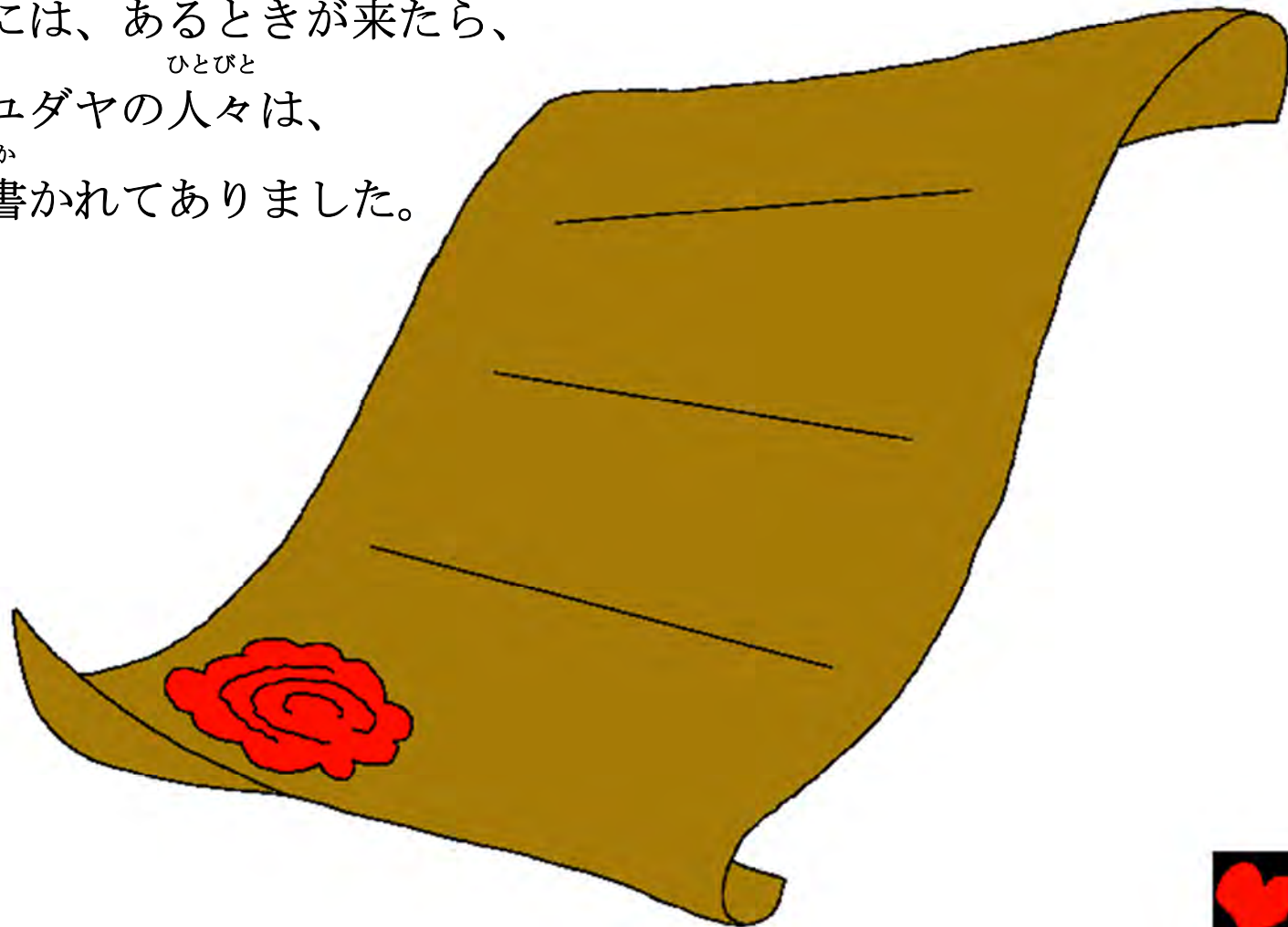
本にのせられるようになりました。



おう ちから よ
王さまのつぎに、力をもっていたのは、ハマと呼ばれる
かね おとこ ひと
お金もちの男の人でした。みんなは、ハマがおおるたび
に、あたまを下げておじぎをしましたよ。あれっ、みんな
でしようか？ いえいえ、一人だけおじぎしませんね。その
ひと じん い しみ
人は、モルデカイ。ユダヤ人のかれは、ただ生ける神さま
にだけ、あたまを下げて礼拝しました。



ハマンは、モルデカイが^{だい}大きらいです。そこで、かれは、モルデカイとペルシ
アにいるユダヤ人^{じん}ぜんぶを、^{ころ}殺してしまおうと^き決めました。なんてひどいやつ
でしょう！このひどい悪人^{あくにん}ハマンは、王^{おう}さまを^{ほう}だまして、ある法にサインさせ
ましたよ。その法^{ほう}には、あるとき^きが来たら、
この国^{くに}のすべてのユダヤの人々は、^{ひとびと}
^{ころ}殺されるだろうと^か書かれてありました。





ほう
ほんとうに、ひどい法
じん
ですね。ユダヤ人もペルシ
じん
ア人も、なげきかなしみまし
た。でも、みなさん、おぼえて
かみ
いますか？神さまは、エステル
おうひ
を王妃にされたでしょう。たし
ひと
か、エステルはユダヤの人でし
じぶん
たよ。エステルは、自分がユダ
じん
ヤ人っていうことを、王さまに
おう
ひみつにしておくつもりでしよ
し
うか。それとも、死をかくごし
ひとびと たす
て、ユダヤの人々を助けようと
するのでしょうか。



かみ

ほうほう

そのとき、神さまがエステルに、うまい方法をおしえてくださいました。

かみ

い

かい

おう

まね

エステルは、神さまが言われたとおり、えん会をひらき、王さまとハマンを招き

かい

おう

ましたよ。そのえん会で、王さまはエステルに、やくそくしました。「なんでも、あなたのぞむことを、かなえてあげよう！」ってね。そこで、エステルは

おう

かい

き

「それでは、王さま、ハマンといっしょに、またえん会に来ていただけますか。

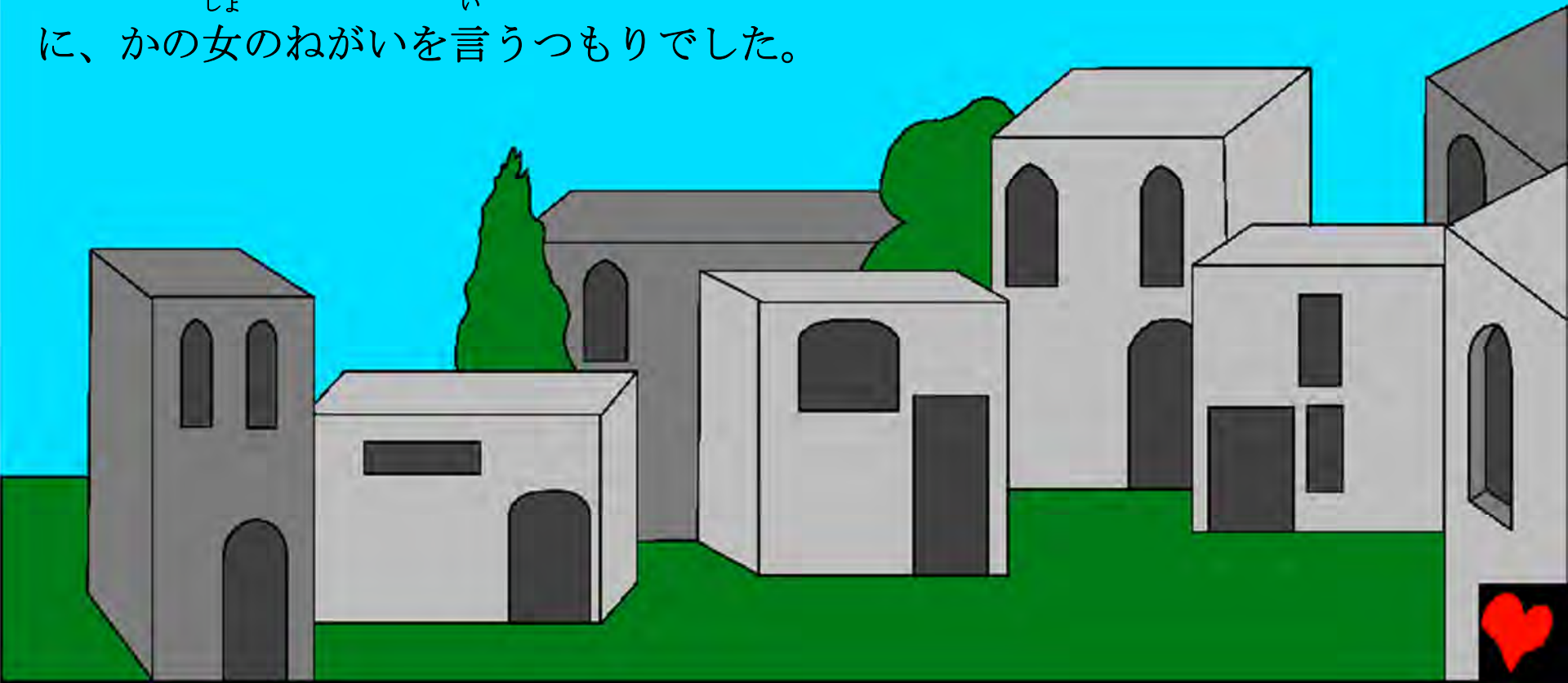
おう

あしたですけれど・・・」と、こたえました。そのときに、エステルは王さま

じょ

い

に、かの女のねがいを言うつもりでした。



さて、そのころハマンは、なにをしていた
のでしょうか。かれは、ものすごい

たか おお はしら
高くて大きい柱を作っていました。モル
くび
デカイをしぼり首にするためですよ。



そのよる、王さまは、なんだか眠れません。そこで、王さまのきろくの本を、

あけてよみながら、気がつきました。モルデカイは、
自分の命を助けてくれたのに、何ひとつほうびを、

もらっていなかったのです。つぎのあさ、王さまは、
ハマンにたずねました。「王をよろこばせた人

に、いったいどんなことをすれば、いいの

だろうか。」それを聞いたハマンは、

大よろこび！ だって、

ハマンは、こう思ったから

です。王さまは、自分のことを
言ってくださってるんだってね。



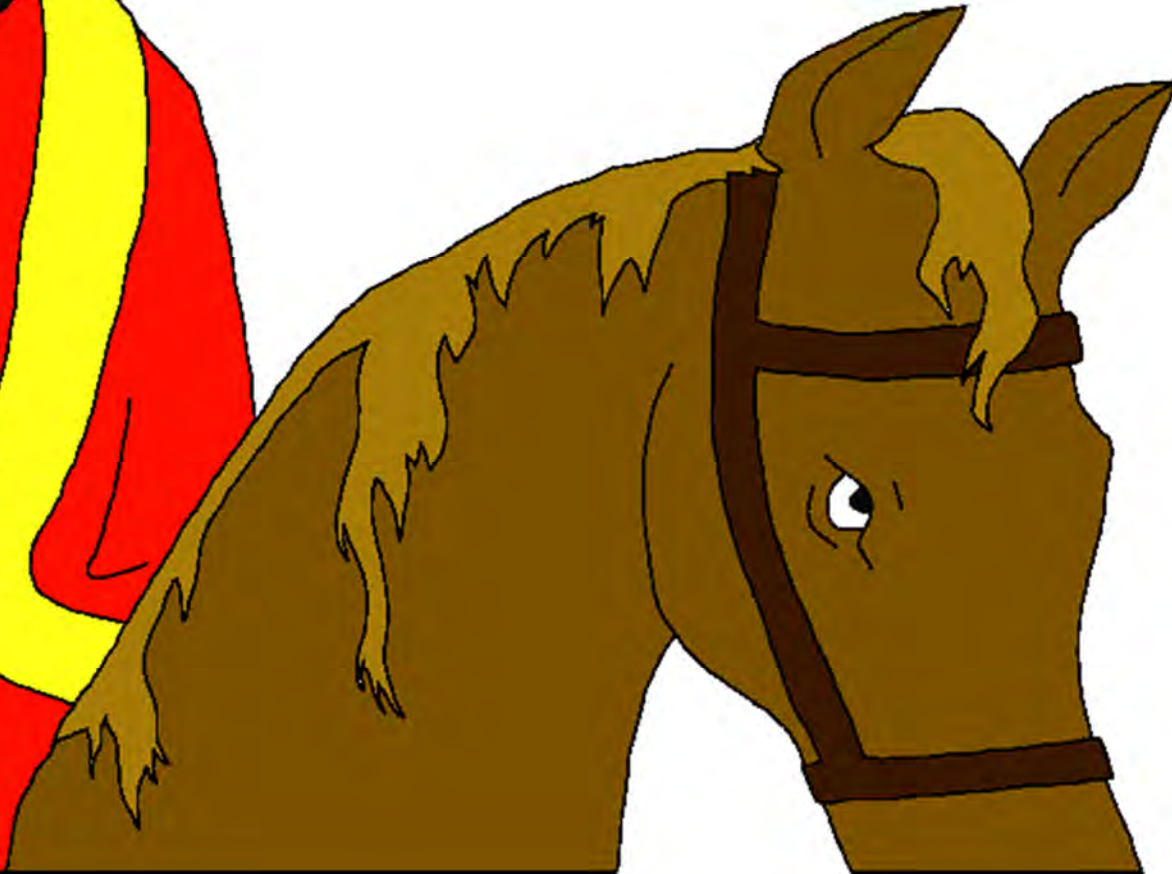


じつは、その日、ハマンは王さまに、モルデカイを首つりの刑
にするおゆるしを、いただこうとやって来たのです。首つりの
柱は、もうすっかりできあがっているのですから。でも、
もう少し待つことぐらい平気です。それよりもハマンは、
うれしくてうれしくてたまりません。自分のかんがえを、
一気に王さまに、話しましたよ。「王さま、
その人に王さまの服を着せ、かんむりをかぶらせてください。」





「また、かれを王さまの馬にすわらせてください。そして、王
さまに仕える一ばんえらい者にめいれいして、町のみんなが、
その男の人を見るように、あんないさせてください。」
「さあ、いそげ！ユダヤ人モルデカイに、そのようにして
やりなさい！」王さまは、ハマンに、こうめいれいしま
した。

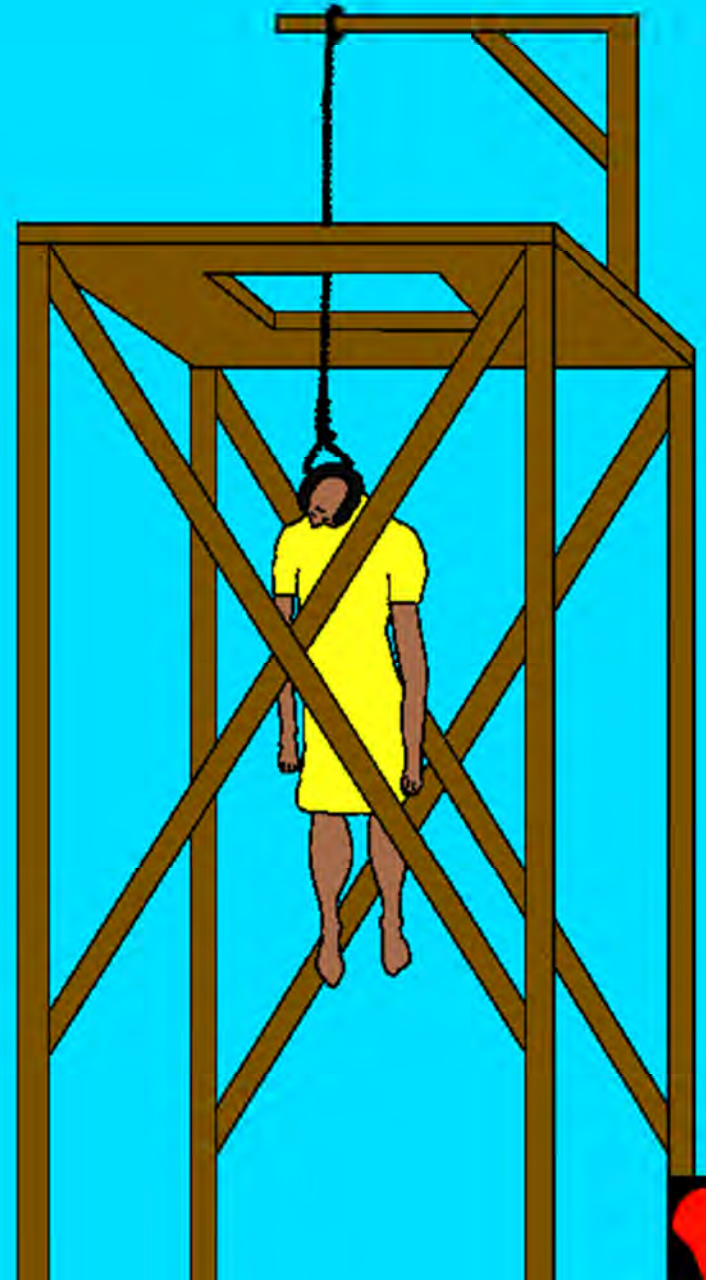


モルデカイをうやまい、あたまを^さ下^まげて、町を^いまわ^きって行く
ことになってしまったハマン。みなさん、かれはどんな気持
ち^{おも}だった^{まえ}と思いますか。きっとかれは、前よりも^まっとも^まっと、
ハマンが^{おも}きらいになったことでしょうね。また、ハマンは、こ
の^{おも}ようにも思^{おも}ったかもしれませんね。「うーん、

^まちよ^まっと待^まてよ。
モルデカイは、
どうせ死^しんじ
まうんだ。ほ
かのユダヤ人^{じん}
みんなといっ
しょにね。」
って。



ひ おう
その日おそく、ハマんと王さま
おうひ かい
は、王妃エステルのえん会に、と
ちやく おう
う着しました。王さまは、そこで
エステルにたずねました。「エス
テル、あなたのねがいは、何で
おう
しょうか。」王さまは、やくそく
わす
を忘れてはいませんでしたね。そ
おうひ
のとき、エステル王妃はハマンの
ほう
方をゆびさしましたよ。そして、
わる
ハマンの悪だくみについて、すべ
おう はな
て王さまに話したのです。もちろ
おう い
ん、王さまは、すぐに、こう言い
ました。「ハマンを、首つりの刑
くび けい
にするんだ！」



それから、王さまは、ユダヤの人々が、自分たちで自分たちを守ることができる
よう、もうひとつの法りつを作ってくださいました。ほんとうによかったです
ね。殺されずにすんだのです。また、モルデカイは、王さまの次にえらい者とな
りました。人々は、おたがいにおくり物をして、心からよろこびあいました
よ。ユダヤの人たちは、今でも決してわすれていません。神さまが、

うつくしいエステル王妃
をとおして、どのように
かれらを助けてくださっ
たかということ。



おうひ
うつくしい王妃 エステル

かみ み せいしょ する
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

き
エステル記

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださった素晴らしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っていらっしゃるのです。

かみ わたし
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しっていらっしゃいます。それを、
かみ つみ つみ し
神さまは、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ あい ひどり こ
けれども、神さまは、あなたをとも愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさま
よ おく つみ じゅうじかじょう な
を、この世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたので
す。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、
あなたがイエスさまを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくだ
さいます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこのころの中に住んでくださいます。

そして、いつまでもイエスさまといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこうに言ってください。
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡く

なってくださいました。そして、よみがえって、いま生きて
わたし なか き つみ わたし いま
いらっしゃいます。どうか、私のこのころの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、
いのち ところ い
あたらしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっ
しょにいることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができ
ますよう、たすけてください。アーめん

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書 3 : 16

